

第三章 26) ファツラ耕地 (プロドスキ駅)



ファツラ耕地 プロドスキ駅

*藤澤豊次郎、1913年10月、帝国丸(第7回移民) (「平野25周年史」)

*山本宇一、1913年10月 同上 (同)

*片山日吉、1913年、帝国丸、熊本県八代郡、配耕後カンピーナス市に移転さらにカンポ・グランデ市で写真館開業。(「ブラジル日系紳士録」910ページ)

*柴山正男、1913年帝国丸、山口県岩国市麻理布出身、コーヒー園に就労、後年プ・エピタシオに移転「バザール柴山」開業。(「ブラジル日系紳士録」662ページ)

*村崎豊重が1913年11月、若狭丸の移民を引率して通訳で入る (回想録)

*丹治重三郎、1914年、若狭丸、福島県信夫郡旧大森村出身、プロドスキー配耕就労後、コッケイロー耕地移り同耕地監督13年、後年リンス植民地に入植。(「ブラジル日系紳士録」470ページ)

*豊田源行、1914年、帝国丸、熊本県葦北郡、レスチンガで2年半、ソドレ耕地でマラリアと闘いながら米作。(「ブラジル同胞活躍の姿」119ページ)

*竹鼻鉄次郎、1919年7月、鎌倉丸、滋賀県愛知郡葉枝見村出身、同駅バンデアルジン耕地に配耕、種々の仕事を経てパラナ州トレスバラス移住地ジャンガーダ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」662ページ)

*川崎進、1928年11月、博多丸、長崎県壱岐郡崎村出身、プロドスキーに入耕3農年就労後、エスピリト・

サント州に移転、さらにパラナ州に移転商店開業。（「ブラジル日系紳士録」820 ページ）

*高橋兼市、1933 年 10 月、アフリカ丸、北海道空知郡出身、一農年就労後、パラナ州後宮耕地及び隣接耕地でコーヒー契約農に従事 5 年。（「ブラジル日系紳士録」828 ページ）

*高橋森太郎、1933 年 11 月、アフリカ丸、北海道空知郡栗沢村出身、同駅付近に就労すること 8 ヶ月後、パラナ州に移り移転を繰り返し落ち着いたのがトレスバラス移住地。
（「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」472 ページ）